

令和7年度 施設分析シート

I 施設の概要		施設コード	S05-01-03		
施設名	ムーブ町屋				
所在地	荒川七丁目50番9号 センターまちや3階・4階				
部課名	地域文化スポーツ部文化交流推進課				
施設の履歴	時期	建築費 (単位:千円)	財源内容 (単位:千円)		
	建築	平成8年 4,970,000	国・都	区債	一般財源
	増改築①		0	3,470,000	1,500,000
増改築②					
併設施設	-				
竣工年月日			区職員	その他	
供用開始年月日	平成8年6月1日		職員数	0人	11人
構造	SRC造		階層	地上22階、地下2階の内、3・4階部分	
面積	敷地面積	3221.29㎡の一部			
	延床面積	25557.45㎡の内、2201.11㎡			
設置目的・経緯	区民文化の向上と地域のコミュニティ活動の促進を図る。				
関連部署	土木管理課、就労支援課、区民課				
根拠法令等 設置条例	荒川区ムーブ町屋条例及び条例施行規則				
駐車場の状況	1台	バリアフリー	エレベーター	トイレ	
駐輪場の状況	22台	対応状況	点字ブロック	スロープ	



II 管理運営の状況

管理形態	指定管理	(株) コングレ	期間	令和5年4月1日	から	
				令和10年3月31日	まで	
事業内容	○施設の利用に関する事業(利用等の承認・不承認・取消、利用料金の収納・減免・還付を含む) ○文化活動及び地域コミュニティ活動に関する相談及び情報の提供に関する事業 ○その他区長が必要と認める事業					
対象者	区民及び施設利用者					
運営時間等	運営時間	午前9時～午後10時まで				
	休日	年末年始(12月29日～1月3日)及び工事、保守点検日				
施設基本データ等		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度(見込み)
	総利用人数(人)	72,444	47,178	19,167	40,551	50,000
	ホール年間利用者数(人)	14,054	28,591	15,664	31,287	40,000
	スタジオ年間利用者数(人)	1,621	1,818	957	2,664	1,800
	ムーブホール稼働率(%)	33	57	65	50	70
	スタジオ稼働率(%)	54	46	45	56	50
	催し物利用状況(件)	740	844	566	1,231	700
に指定 用係等 る管 理 費	指定管理料(千円)	41,349	40,446	34,994	36,221	36,612
	指定管理者の支出合計(千円)	64,705	66,410	46,481	64,091	59,113
	指定管理者の人件費(千円)	40,186	38,336	24,620	35,901	31,492
	指定管理者の利用料金収入(千円)	19,373	23,855	10,424	20,275	26,944
備考	令和6年度については、改修工事により休館した令和5年度と比較して、利用者は増加したが、ホールの稼働率は低下した。					

III 財務諸表

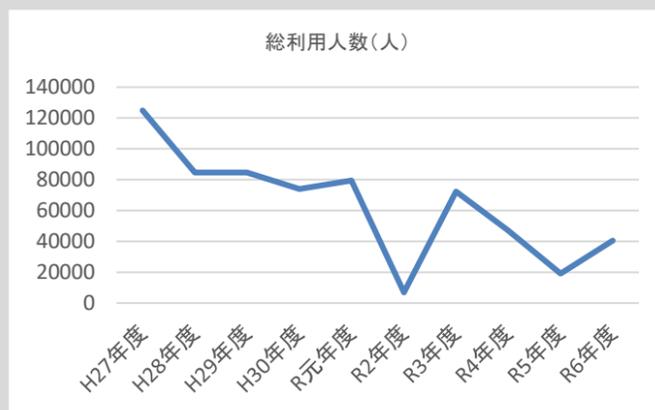
(単位:千円)

行政コスト計算書	勘定科目	R5年度	R6年度	差額	勘定科目	R5年度	R6年度	差額
	給与関係費	0	0	0	地方税等	0	0	0
	物件費	40,040	38,345	▲1,695	国庫支出金	0	0	0
	維持補修費	165	5,118	4,953	都支出金	0	0	0
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0
	補助費等	51,380	52,002	622	使用料及び手数料	0	0	0
	減価償却費	71,609	78,797	7,188	その他	51	47	▲4
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	51	47	▲4
	賞与・退職給与引当金繰入額	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲163,143	▲174,215	▲11,072
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0
	行政費用合計(b)	163,194	174,262	11,068	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲163,143	▲174,215	▲11,072
	特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	2,260	0	▲2,260
特別収支差額(f)-(g)=(h)	2,260	0	▲2,260	当期収支差額(e)+(h)	▲160,883	▲174,215	▲13,332	
貸借対照表	勘定科目	R5年度	R6年度	差額	勘定科目	R5年度	R6年度	差額
	流動資産				流動負債			
	収入未済	0	0	0	還付未済金	0	0	0
	不納欠損引当金	0	0	0	特別区債	0	0	0
	その他の流動資産	0	0	0	賞与引当金	0	0	0
	有形固定資産	2,318,559	2,239,762	▲78,797	その他の流動負債	0	0	0
	土地	1,516,648	1,516,648	0	固定負債	0	0	0
	建物	2,806,964	2,806,964	0	特別区債	0	0	0
	建物減価償却累計額	▲2,005,052	▲2,083,849	▲78,797	退職給与引当金	0	0	0
	工作物等	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0
	工作物等減価償却累計額	0	0	0	負債の部合計	0	0	0
	無形固定資産	0	0	0	正味財産	2,320,819	2,242,022	▲78,797
建設仮勘定	2,260	2,260	0	正味財産の部合計	2,320,819	2,242,022	▲78,797	
その他の固定資産	0	0	0	負債及び正味財産の部合計	2,320,819	2,242,022	▲78,797	
資産の部合計	2,320,819	2,242,022	▲78,797					
備考	物件費の主な内訳は指定管理者委託料である。令和6年度の維持補修費の主な内訳は空調機用ドレン管修繕費である。補助費等の主な内訳はセンターまちや管理運営費等の負担金である。							

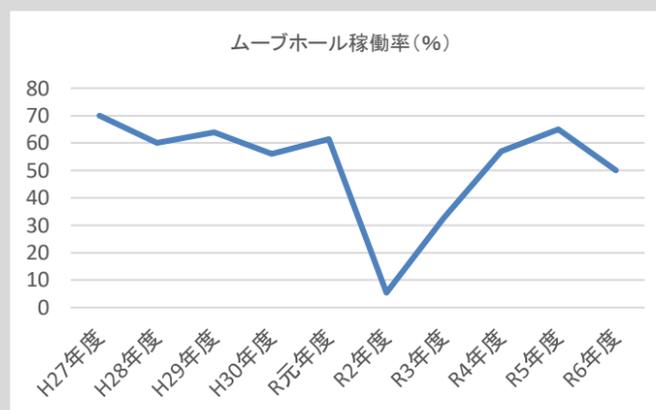
指標		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度(見込み)
財務指標・評価指標等	有形固定資産減価償却率(%)	70	73	71.4	74.2	74.2
	1㎡当たりコスト(円)	68,558	88,643	74,142	79,170	79,170
	人にかかるコストの割合(指定管理)(%)	62	58	53.0	56.0	53.3
	受益者負担比率(%)	9	11	6.0	10.0	11.5
	利用者1人当たりのコスト(円)	2,838	4,136	8,514	4,297	3,485
	開館1日当たりのコスト(円)	572,652	543,493	454,579	485,409	485,409
	区民1人当たりコスト(円)	884	898	751	802	802
備考	令和6年度は空調機用ドレン管修繕により、開館1日当たりのコスト、区民1人当たりのコストが増加しているが、令和5年度の改修工事による休館期間(半年間)が終了し、令和6年度の利用者数が休館前の水準に戻ってきているため、利用者1人当たりコストが減少している。					

IV 施設運営の方向性(所管の考え方)

計画の有無	● 無 ○ 有 (計画名:)					
目標指標	指標名・単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度(見込み)
	利用人数	目標値 20,000	80,000	75,000	50,000	45,000
		実績値 72,444	47,052	19,167	40,551	45,000
施設運営の方向性	○ 転用・多目的化 ○ 民営化 ○ 他施設との統合 ○ 廃止 ● 現状維持 ○ その他()					
管理形態の変更の推移	● 有 (変更内容: 平成8年度: 荒川区地域振興公社へ運営委託、平成18年度: 指定管理者制度導入) ○ 無					
利用者・地域のニーズ	施設利用者へのきめ細やかな対応					
現状・課題	○施設全体の老朽化が目立ち始めているため、適切な保守による維持管理に努め、修繕の実施にあたっては、指定管理者とセンターまちや管理組合との連絡・調整が必要である。 ○利用者アンケート等、日々寄せられる多様化するニーズへの対応が求められる。 ○地域の賑わい創出及び利用者の拡大を図るため、自主事業等の積極的な企画・実施が求められる。 ○日々の運営について町屋区民事務所と連携をし、円滑な施設運営に努める必要がある。					
課題に対する現時点での考え	○施設をはじめ、町屋区民事務所や関係部署とも調整し、今後の修繕計画について検討する。 ○利用者のニーズに柔軟に対応していけるよう、指定管理者と密に連携し、利用者満足度やサービスの向上に努める。 ○施設稼働率の向上及び利用者数の増加に向け、施設の特徴を活かした自主事業等を実施し、施設の魅力度及び認知度の向上に向けた取り組みを検討する。					
議会、利用者等からの意見						



令和2年度は緊急事態宣言、令和5年度は半年間の工事休館の影響により、利用人数が減少となった。



令和2年度は、緊急事態宣言による休館の影響により稼働率が大幅に低下し、令和6年度は前年度の工事休館が影響し、稼働率が低下した。

令和7年度 施設分析シート

I 施設の概要		施設コード	S05-01-01		
施設名	区民会館（サンパール荒川）				
所在地	荒川一丁目1番1号				
部課名	地域文化スポーツ部文化交流推進課				
施設の履歴	時期	建築費 (単位:千円)	財源内容 (単位:千円)		
			国・都	区債	一般財源
	建築	昭和50年	1,950,000		
	増改築①	平成4年	1,540,000	0	1,540,000
増改築②	平成27年	2,460,000	110,000	1,940,000	410,000
併設施設					
竣工年月日	昭和50年3月26日		区職員	その他	
供用開始年月日	昭和50年3月26日		職員数	0 44	
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造		階層	地下1階、地上6階	
面積	敷地面積		4279.01㎡		
	延床面積		10044.09㎡		
設置目的・経緯	区民の文化振興のため				
関連部署					
根拠法令等 設置条例	荒川区民会館条例				
駐車場の状況	18台	バリアフリー	● エレベーター	● トイレ	
駐輪場の状況	111台	対応状況	● 点字ブロック	● スロープ	



II 管理運営の状況

管理形態	指定管理	(株)ケイミックスパブリックビジネス	期間	令和5年4月1日	から	
				令和10年3月31日	まで	
事業内容	○施設の利用に関する事業（利用等の承認・不承認・取消、利用料金の収納・減免・還付を含む） ○文化活動及び地域コミュニティ活動に関する相談及び情報の提供に関する事業 ○その他区長が必要と認める事業					
対象者	区民及び施設利用者					
運営時間等	運営時間	午前9時から午後10時まで				
	休日	年末年始（12月29日～1月3日）及び工事、保守点検日				
施設基本データ等		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度（見込み）
	大ホール年間利用者数（人）	57,443	91,958	130,343	102,791	130,500
	小ホール年間利用者数（人）	19,002	28,593	42,063	38,187	42,500
	集会室年間利用者数（人）	83,044	89,397	67,767	55,348	68,000
	大ホール貸出稼働率（%）	66	81	71	72	75
	小ホール貸出稼働率（%）	56	65	67	67	70
	集会室貸出稼働率（%）	59	56	44	40	50
	催し物利用状況（件）	708	723	665	614	700
に指定 係等 管理 費	指定管理料（千円）	146,132	161,540	167,815	176,325	176,325
	指定管理者の支出合計（千円）	214,636	230,480	233,359	249,019	243,652
	指定管理者の人件費（千円）	36,552	32,592	31,611	37,297	39,733
	指定管理者の利用料金収入（千円）	84,352	97,261	88,411	93,496	68,377
備考	令和4年度以降、新型コロナウイルス感染症の感染状況の改善等に伴い、ホールの利用が増え、コロナ禍前より高い稼働率となっており、令和5年度の新型コロナ感染症5類移行後は、大・小ホールともに利用者数の増加が顕著となった。令和6年度については、改修工事による休館の影響により、令和5年度と比較して利用者が減少した。					

III 財務諸表

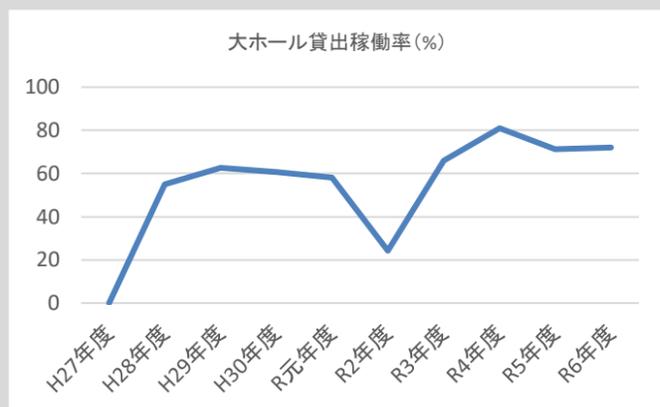
(単位:千円)

行政コスト計算書	勘定科目	R5年度	R6年度	差額	勘定科目	R5年度	R6年度	差額
	給与関係費	0	0	0	地方税等	0	0	0
	物件費	182,940	198,075	15,135	国庫支出金	0	0	0
	維持補修費	10,200	276,394	266,194	都支出金	0	0	0
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0
	補助費等	60	121	61	使用料及び手数料	2,957	3,417	460
	減価償却費	1,010	846	▲ 164	その他	10,782	7,414	▲ 3,368
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	13,739	10,831	▲ 2,908
	賞与・退職給与引当金繰入額	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 180,471	▲ 464,605	▲ 284,134
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	▲ 2,503	▲ 2,239	264
	行政費用合計(b)	194,210	475,436	281,226	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 182,974	▲ 466,844	▲ 283,870
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0	
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 182,974	▲ 466,844	▲ 283,870	
貸借対照表	勘定科目	R5年度	R6年度	差額	勘定科目	R5年度	R6年度	差額
	流動資産				流動負債	194,870	404,962	210,092
	収入未済	0	0	0	還付未済金	0	0	0
	不納欠損引当金	0	0	0	特別区債	194,870	404,962	210,092
	その他の流動資産	0	0	0	賞与引当金	0	0	0
	有形固定資産	140,950	140,522	▲ 428	その他の流動負債	0	0	0
	土地	125,538	125,538	0	固定負債	559,525	154,564	▲ 404,961
	建物	1,971,187	1,971,187	0	特別区債	559,525	154,564	▲ 404,961
	建物減価償却累計額	▲ 1,955,775	▲ 1,956,202	▲ 427	退職給与引当金	0	0	0
	工作物等	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0
	工作物等減価償却累計額	0	0	0	負債の部合計	754,395	559,526	▲ 194,869
無形固定資産	0	0	0	正味財産	▲ 591,615	▲ 346,292	245,323	
建設仮勘定	0	51,300	51,300	正味財産の部合計	▲ 591,615	▲ 346,292	245,323	
その他の固定資産	21,830	21,412	▲ 418	負債及び正味財産の部合計	162,780	213,234	50,454	
資産の部合計	162,780	213,234	50,454					
備考	物件費の主な内訳は指定管理者委託料、維持補修費の主な内訳は動力盤・舞台照明・音響等の改修工事費であり、前年度より増となっている。行政収入のその他は指定管理者からの利益納付金（収支差額の1/2）や光熱水費受入である。							

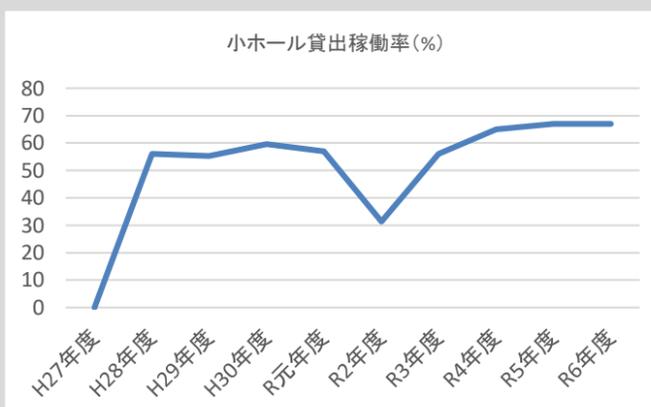
指標		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度(見込み)
財務指標・評価指標等	有形固定資産減価償却率(%)	100.0	99	99.2	99.2	99.2
	1㎡当たりコスト(円)	17,902	17,551	19,336	47,335	47,335
	人にかかるコストの割合(指定管理)(%)	17	14	14	15.0	16.3
	受益者負担比率(%)	34	38	34.0	17.1	12.6
	開館1日当たりコスト(円)	500,872	491,039	540,975	1,324,334	1,324,334
	利用者1人当たりコスト(円)	1,127	840	809	2,422	1,973
	区民1人当たりコスト(円)	828	811	894	2,189	2,189
備考	令和6年度から令和7年度は改修工事の実施(予定)等により、開館1日当たりのコスト、利用者1人当たりのコスト、区民1人当たりのコストが増加している。					

IV 施設運営の方向性(所管の考え方)

計画の有無	● 無 ○ 有 (計画名:)						
目標指標	指標名・単位		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度(見込み)
	利用人数	目標値	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000
		実績値	159,489	209,948	240,173	208,726	250,000
施設運営の方向性	○ 転用・多目的化 ○ 民営化 ○ 他施設との統合 ○ 廃止 ● 現状維持 ○ その他()						
管理形態の変更の推移	● 有 (変更内容: 平成2年度:荒川区地域振興公社へ運営委託、平成18年度:指定管理者制度導入) ○ 無						
利用者・地域のニーズ	施設利用者へのきめ細やかな対応						
現状・課題	○平成4年度(第1回)、平成27年度(第2回)に大規模改修を実施した。 ○施設の老朽化を踏まえ、計画的に修繕を行う等、施設の保全に努める必要がある。 ○敷地の一部が東京都市計画道路補助線街路第90号線の予定地であるため、整備後に施設運営に支障がでないよう、関係機関と調整を図る。 ○多様化する催事内容・利用者ニーズ等へ柔軟に対応することが求められる。 ○さまざまな事業を実施し、区民が芸術・文化に親しむことができる環境を整備する必要がある。						
課題に対する現時点での考え	○都市計画道路整備の影響が最小限となるよう関係機関に調整していく。 ○利用者ニーズに柔軟に対応できるよう、指定管理者と施設の運営方法やサービス向上策について緊密な連携を図っていく。 ○ラウンジを活用した賑わい創出や自主事業のさらなる充実等について、指定管理者と協議をしていく。						
議会、利用者等からの意見	令和2年度9月会議 「サンパール荒川の今後の在り方について」 令和5年決特 「宴会利用について」 令和6年予特 「移転建て替えの検討について」「大規模改修について」						



令和2年度は、緊急事態宣言による施設の休館等があったため稼働率が大幅に減少したが、令和3年度以降は感染状況の改善等に伴い、増加に転じた。



令和2年度は、緊急事態宣言による施設の休館等があったため稼働率が大幅に減少したが、令和3年度以降は感染状況の改善等に伴い、増加に転じた。

令和7年度 施設分析シート

I 施設の概要		施設コード	S05-01-02		
施設名	日暮里サニーホール				
所在地	東日暮里五丁目50番5号 ホテルラングウッド4階・5階				
部課名	地域文化スポーツ部文化交流推進課				
施設の履歴	時期	建築費 (単位:千円)	財源内容 (単位:千円)		
	建築	平成元年 2,000,000	国・都	区債	一般財源
	増改築①		0	0	2,000,000
	増改築②				
併設施設	-				
竣工年月日			区職員	その他	
供用開始年月日	平成元年2月9日		職員数	0人	11人
構造	SRC造		階層	地上13階、地下3階の内、4・5階部分	
面積	敷地面積	3100.03㎡の一部			
	延床面積	23562.71㎡の内、2311.28㎡			
設置目的・経緯	区民文化の向上と地域のコミュニティ活動の促進を図る。				
関連部署	経理課				
根拠法令等 設置条例	日暮里サニーホール条例及び条例施行規則				
駐車場の状況	3台	バリアフリー	● エレベーター	● トイレ	
駐輪場の状況	無	対応状況	○ 点字ブロック	○ スロープ	



II 管理運営の状況

管理形態	指定管理	(株) コングレ	期間	令和5年4月1日	から	
				令和10年3月31日	まで	
事業内容	○施設の利用に関する事業（利用等の承認・不承認・取消、利用料金の収納・減免・還付を含む） ○文化活動及び地域コミュニティ活動に関する相談及び情報の提供に関する事業 ○その他区長が必要と認める事業					
対象者	区民及び施設利用者					
運営時間等	運営時間	午前9時～午後10時まで				
	休日	年末年始（12月29日～1月3日）及び工事、保守点検日				
施設基本データ等		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度（見込み）
	総利用者数（人）	47,387	63,054	90,249	66,534	95,000
	ホール年間利用者数（人）	21,989	35,013	54,468	39,864	60,000
	サロン年間利用者数（人）	13,601	19,305	24,526	19,169	35,000
	ホール稼働率（%）	32	52	69	68	75
	サロン稼働率（%）	58	79	82	88	90
	催し物利用状況（件）	656	801	964	679	1,000
に指定 係等 管理 費	指定管理料（千円）	56,330	49,455	35,735	45,016	47,242
	指定管理者の支出合計（千円）	96,062	95,846	96,220	87,358	102,326
	指定管理者の人件費（千円）	53,292	46,401	45,544	36,488	44,181
	指定管理者の利用料金収入（千円）	33,112	46,653	58,008	39,834	56,518
備考	令和5年度は新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、感染拡大防止のための利用制限が緩和され、令和4年度と比較して稼働率が向上し、利用者が増加した。令和6年度は設備等改修工事による休館の影響により、令和5年度と比較して利用者が減少した。					

III 財務諸表

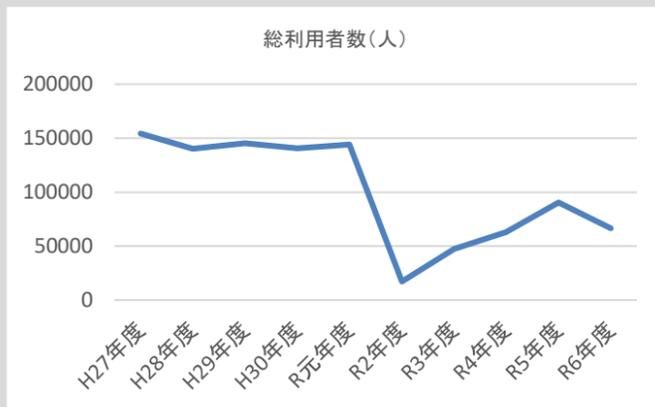
(単位:千円)

行政コスト計算書	勘定科目	R5年度	R6年度	差額	勘定科目	R5年度	R6年度	差額
	給与関係費	0	0	0	地方税等	0	0	0
	物件費	40,392	49,035	8,643	国庫支出金	0	0	0
	維持補修費	0	0	0	都支出金	0	0	0
	扶助費	0	0	0	分担金及び負担金	0	0	0
	補助費等	14,875	12,232	▲ 2,643	使用料及び手数料	0	0	0
	減価償却費	36,010	36,010	0	その他	6,089	5,760	▲ 329
	不納欠損・貸倒引当金繰入額	0	0	0	行政収入合計(a)	6,089	5,760	▲ 329
	賞与・退職給与引当金繰入額	0	0	0	行政収支差額(a)-(b)=(c)	▲ 85,188	▲ 91,517	▲ 6,329
	その他行政費用	0	0	0	金融収支差額(d)	0	0	0
行政費用合計(b)	91,277	97,277	6,000	通常収支差額(c)+(d)=(e)	▲ 85,188	▲ 91,517	▲ 6,329	
特別費用(g)	0	0	0	特別収入(f)	0	0	0	
特別収支差額(f)-(g)=(h)	0	0	0	当期収支差額(e)+(h)	▲ 85,188	▲ 91,517	▲ 6,329	
貸借対照表	勘定科目	R5年度	R6年度	差額	勘定科目	R5年度	R6年度	差額
	流動資産				流動負債			
	収入未済	0	0	0	還付未済金	0	0	0
	不納欠損引当金	0	0	0	特別区債	0	0	0
	その他の流動資産	0	0	0	賞与引当金	0	0	0
	有形固定資産	73,354	208,349	134,995	その他の流動負債	0	0	0
	土地	0	0	0	固定負債	0	0	0
	建物	1,333,703	1,504,708	171,005	特別区債	0	0	0
	建物減価償却累計額	▲ 1,260,350	▲ 1,296,360	▲ 36,010	退職給与引当金	0	0	0
	工作物等	0	0	0	その他の固定負債	0	0	0
工作物等減価償却累計額	0	0	0	負債の部合計	0	0	0	
無形固定資産	0	0	0	正味財産	130,492	214,287	83,795	
建設仮勘定	54,138	2,938	▲ 51,200	正味財産の部合計	130,492	214,287	83,795	
その他の固定資産	3,000	3,000	0	負債及び正味財産の部合計	130,492	214,287	83,795	
資産の部合計	130,492	214,287	83,795					
備考	物件費の主な内訳は指定管理委託料である。令和6年度は設備等改修工事による休館に伴い、利用料金減収分を指定管理料に増額した影響により、前年度より増加となっている。補助費等の主な内訳はラングウッド駐車場建物管理業務経費等負担金及びラングウッドビル計画修繕補修工事等負担金である。							

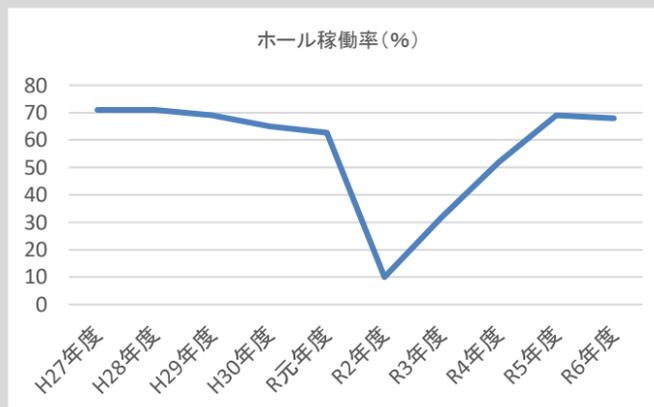
指標		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度(見込み)
財務指標・評価指標等	有形固定資産減価償却率(%)	89	92	94.5	86.2	86.2
	1㎡当たりコスト(円)	60,169	42,990	39,492	42,088	42,088
	人にかかるコストの割合(指定管理)(%)	56	48	47.3	41.8	43.2
	受益者負担比率(%)	19	32.0	38	28.5	28.3
	開館1日当たりコスト(円)	387,373	276,774	254,253	270,967	270,967
	利用者1人当たりコスト(円)	2,935	1,576	1,011	1,462	1,024
	区民1人当たりコスト(円)	640	457	420	448	448
備考	令和6年度は、設備等改修工事による休館などの影響により、開館1日当たりのコスト、利用者1人当たりコスト、区民1人当たりコストが増加している。					

IV 施設運営の方向性(所管の考え方)

計画の有無	● 無 ○ 有 (計画名:)					
目標指標	指標名・単位	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度(見込み)
	利用人数	目標値 50,000	145,000	90,000	95,000	95,000
		実績値 47,387	63,054	90,249	66,534	95,000
施設運営の方向性	○ 転用・多目的化 ○ 民営化 ○ 他施設との統合 ○ 廃止 ● 現状維持 ○ その他()					
管理形態の変更の推移	● 有 (変更内容: 平成1年度:荒川区地域振興公社へ運営委託、平成18年度:指定管理者制度導入) ○ 無					
利用者・地域のニーズ	施設利用者へのきめ細やかな対応					
現状・課題	○施設全体の老朽化が目立ち始めているため、適切な保守による維持管理に努め、修繕の実施にあたっては、指定管理者とホテルラングウッドとの連絡・調整が必要である。 ○利用者アンケート等、日々寄せられる多様化するニーズへの対応が求められる。 ○地域の賑わい創出及び利用者の拡大を図るため、自主事業等の積極的な企画・実施が求められる。					
課題に対する現時点での考え	○関係部署や施設、アードホテル日暮里ラブウッドと調整し、今後の修繕計画について検討する。 ○利用者ニーズに柔軟に対応していけるよう、指定管理者と密に連携し、利用者満足度やサービスの向上に努める。 ○施設稼働率の向上及び利用者数の増加に向け、施設の特性を活かした自主事業等を実施し					
議会、利用者等からの意見						



令和2年度は、緊急事態宣言による施設の休館等があったため利用人数が大幅に減少したが、令和3年度以降は感染状況の改善に伴い、増加に転じた。



令和2年度は、緊急事態宣言による施設の休館等があったため稼働率が大幅に低下したが、令和3年度以降は感染状況の改善に伴い、上昇に転じた。